

大切なお子さんを交通事故から守るために

保護者の方へ…

子どもの特性を踏まえた指導をお願いします



特性① ひとつの事に 夢中になる

「飛び出し」がいけないことは理解していても、道路の向こうに友達や家族がいると、周りの状況には目もくれず、つい飛び出してしまう。

道路を渡るときは、

横断歩道を渡る

信号を守る

手をあげて安全確認をする等、安全な行動が身につくように、繰り返し教えましょう。



特性② 単純思考

抽象的な言葉では伝わらない

「手をあげる」「左右を見る」だけでは、子どもは理由まで理解できず、手の位置が低かったり、ただ漫然と首を振るだけになってしまいます。

「車の運転者に見えるように手をあげる」

「右や左から車が来ないか見る」などと具体的に教えましょう。

「いつもの道路」もチェックをしてみましょう！

- 子どもの目線で危険をチェック！
- 危険回避方法を具体的に指導
- 覚えるまで、何度も繰り返す



特性③ 大人に依存

子どもは、良いことも悪いこともあります。大人のマネをします。

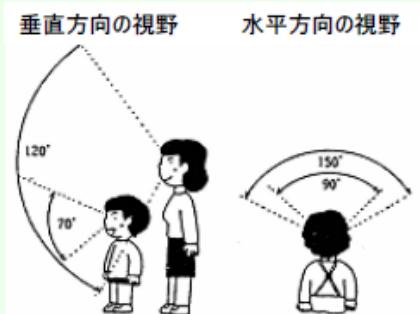
また、「大人がいれば安心」と判断し、安全確認などを大人任せにしてしまいがちです。



子どもと一緒に安全確認を行うことはもちろんですが、周囲の大人が、日ごろから交通ルールをしっかり守り、子どもの手本になります。

子どもの視界は、大人の3分2程度といわれています。

安全確認をさせるときは、顔をしっかり振らせましょう。



特性④ 視界が狭い



日田教室